

パリ2024パラリンピック
車いすラグビー 金メダリスト

のりまつ せい や くさ ば りゅう じ
乗松 聖矢 選手、草場 龍治 選手



福岡県知事 服部 誠太郎



乗松 聖矢 選手

熊本県出身。SMBC日興証券(株)所属。

草場 龍治 選手

朝倉市出身。三建設備工業(株)所属。

福岡の車いすラグビーチーム「Fukuoka DANDELION(福岡ダンデライオン)」からパリパラリンピックに出場し、念願の金メダルを獲得した乗松選手と草場選手に、競技への思いなどを語っていただきました。

車いすラグビーを始めたきっかけ

知事：5戦全勝という素晴らしい成績で悲願の金メダル獲得、おめでとうございます。見事なご活躍でした。お二人が車いすラグビーを始めたきっかけは？

乗松：もともと16歳のときに車いすバスケットを始めて、23歳のときに沖縄の車いすラグビーチームに誘われて転向しました。その後、福岡にFukuoka DANDELIONが誕生し、数年後に移籍しました。辛いバスケットで培った技術はラグビーにも応用できたので、すぐに強化選手に選ばれました。

草場：私も初めは車いすバスケットをしていましたが、車いすラグビーの乗松選手が自分と同じ障がいを抱えながら世界の舞台上で活躍していると知り、憧れもあって転向しました。外出するきっかけが少なかったので、パラスポーツに出会って生活に張りが出ました。本当に良かったです。

パラリンピックへの思い

知事：乗松選手にとっては3回目、草場選手にとっては初めてのパラリンピックでしたが、出場された感想は？

乗松：2大会連続の銅メダルでしたので、「3度目の正直」になるのか「2度あることは3度ある」になるのか、2大会経験しているからこそそのプレッシャーがありました。絶対に金メダルを取る、という強い気持ちで臨みました。一方、草場選手は全然緊張していなくて、歌とか歌っていて(笑)。これなら大丈夫だな、と逆にリラックスさせられました。

草場：緊張しなかったわけではないのですが、一緒に戦ってきた仲間がたくさんいたので、コートに出ても一人じゃない、自分のできることを一生懸命やろうという気持ちで試合に臨みました。

乗松：私は車いすラグビーを始めたときからチームプレーの楽しさと難しさについてずっと考えてい

ました。「個々の考えの違いを全部受け入れ、そしていい面を見つけよう」という自分なりの答えを実行し続けた結果、金メダルにつながったと思っています。日常においても、嫌なことがあってもすぐにその側面にあるいいことを考えることが習慣化されました。



写真：アフロスポーツ

福岡県とパラスポーツ

知事：スポーツにとどまらず、人としての生き方を教えていただいた思いがします。最後に、お二人のこれからの目標や県民の皆さんへのメッセージをお願いします。

乗松：福岡に車いすラグビーのチームがあることは誇りです。「日本で車いすラグビーと言えば、Fukuoka DANDELION」と言われるよう頑張りますので、これからも応援よろしくをお願いします。

草場：たくさんの方にサポートいただいています。これからも応援してくださる方への感謝の気持ちを忘れず、私生活でも競技でも、人とのつながりを大切にしていきたいです。

知事：ありがとうございます。県では「F-STAR」でパラアスリートの発掘・育成に力を注いでいます。こうした取り組みを通じて、障がいの有無にかかわらず、誰もがスポーツを楽しめる環境をつくり、インクルーシブな共生社会を実現したいと思います。お二人には今後も日本を代表するトップアスリートとしてのご活躍を期待しています。

F-STAR

(パラスポーツタレント発掘事業)とは？

パラスポーツの優れた素質や潜在的な能力を持つ人材を見つけ育成するプログラム。本県から世界で活躍するパラアスリートを輩出することを目指している。



写真：アフロスポーツ